

# 「千葉地本の組合員の皆さんへ」発出！

# JREU JR東労組千葉地本

2018年3月22日 No.122  
JR東労組千葉地方本部  
発行者：下村悟史  
編集者：情宣担当

## 千葉地本の組合員の皆さんへ

～明るく働きがいのある職場を取り戻すため、臨時大会を成功させよう！～

### ◆不安の中で踏ん張っている皆さんに、お詫びと感謝を申し上げます

千葉地本から運動方針の意思統一や説明、情報伝達が行き届かず、新聞等の報道が先行し、不安と混乱、「何を信用すれば良いか分からない」という状態を生じさせていることについて、千葉地本として組合員・家族・OB会員の皆さんに対し、深くお詫び申し上げます。そのような中でもなお、東労組の旗のもとに結集し、歯をくいしばって奮闘する組合員・役員の皆さんには感謝の言葉しかありません。

### ◆具体的な方針を打ち出せず、脱退が相次ぐ

JR東労組は18春闘において「格差ベア根絶」を掲げ、運動を創り出してきました。そして、2月23日の「闘争第1号」の団体交渉の結果を受けて全地本の委員長による会議で到達点を確認し、2月24日に争議行為解除の通知を会社に提出しました。従って、格差ベアに限定したスト権は失効し、格差ベアを巡る労使紛争は解決したことを確認してきました。

しかしそれ以降も労使関係は悪化、「労使共同宣言」の失効などにより職場での混乱と脱退が続きました。組合員や役員が苦しみ、本部に救いを求めましたが、「不当労働行為に抗するためにたたかうこと」以外には具体的な方針が示されず、その間も脱退届が次々に届き、「仕事が手につかず、夜も眠れない」「自分以外は脱退してしまった」「もう限界だ」との悲痛な声が寄せられました。千葉地本として「耐えてください」という提起では限界と認識しつつも、本部方針に則り運動を進め、現在の事態を引き起こしました。涙ながらに心境を打ち明けた仲間や、様々な立場がありつつも踏ん張る仲間もいます。組合員の声や職場の現実、千葉地本の力量に踏まえた方針を示せず、多くの仲間を傷つけ、安全の危機と信頼関係の崩壊を招いたことに、本部だけではなく千葉地本としての責任も重く、深く反省しなければなりません。

### ◆東労組への失望を生んだ反省に基づき、組合員の声から千葉地本の方針を転換

特に、駅や工務、支社を中心とする組合員・分会役員からスト権に関する様々な発信があったにも関わらず方針を変えずに突き進み、東労組への不信感・失望感を生みました。3月8日の「組合員と共に歩む！18春闘大集会」で分会や支部からの決意表明で触れられたように、JR東労組は本部や地本のための組織ではありません。営業、運輸車両、工務、かんり、きかく、医療の各系統と、グループ会社等で活躍されている皆さん、その全員で創る労働組合です。よって、組合員を引きまわした事実を反省し、現場での本音を全ての出発点として「組合員のための東労組運動」をゼロから再建すること、特に「一日でも早く、明るく働きがいのある職場を取り戻すこと」を最重要課題としました。

### ◆事態を収めるため、本部へ臨時大会開催を要請！

千葉地本として事態を収束するには時間的余裕はないと判断し、①「3月11日までにあらゆる事態の収束を図る努力をすること」、②「労使関係を立て直し、『労使共同宣言』の再締結に向けて努力すること」、③「現本部体制で立て直しが出来ない場合は、臨時大会の開催を要請する」の3点を本部に求めると共に、同様の危機感に立つ大宮・横浜・秋田・盛岡・仙台地本を中心とする代議員108名による要請書を本部に提出しました。そして要請に基づき、「臨時大会」の開催と「吉川執行委員長の辞任」が3月11日の全地本の委員長による会議で決定されました。臨時大会では18春闘をたたかってきた中で大量脱退を発生させてしまった総括を行い、問題点を明確にして反省の上で組合員目線の運動方針を確立し、事態の収束にあたることのできる体制を目指さなければならないと考えます。

### ◆臨時大会にて、東労組としてゼロから再出発するために動いています！

臨時大会の開催は決定したものの、開催日時が決まっていません（3月21日現在）。この背景には、現在も「不当労働行為は前に出てたかう」ことを前面に押し出す一部の本部役員や地本があり、意見対立が続いているためです。労働組合は多様な考えを持つ組合員の集まりであり、意見対立が生じることもあります。不当労働行為はあってはならないものです。しかし、現在の状況は18春闘でのたたかいの中でJR東労組の力量や情勢認識を見誤ったことで引き起こしたのであり、役員だけの考えによって組合員を引き回す訳にはいきません。また、18春闘の妥結結果も基本給に0.25%などの回答を引き出したものの、「一律定額ベアを求めてきたことからすれば、成果とは言えない」という組合員の声を真摯に受け止めなければなりません。

いま求められているのは、上から下への押し付け的な方針ではなく、現場で苦勞している組合員の声を受け止め、総括と反省の上で労使関係や組合員との関係を再構築し、信頼関係の回復を図ることです。3月19・20日には分会代表者による本部への要請行動を行い、12地本で気持ちを一つに臨時大会にて再出発できるよう、現場の声を直接届けてきました。一刻も早く臨時大会を開催するために、強く働きかけていきます。

### ◆労使関係の再構築に向けて動いています！

会社は2月26日に「労使共同宣言」の失効を通知し、多くの組合員が動揺しています。しかし、労使共同宣言以外の様々な「労働協約」は現在も有効です。労働協約によって「雇用」をはじめ、「出向」「ライフサイクルの深度化」での原則3年以内などのルールを定めており、これにより安心して働くことができます。安心感の上で質の高い仕事ができることから、会社を発展させるためにも「労働協約」がとても重要です。

そして、3月10日付の「勤労速報」において、会社は今後の労使関係の基礎的要件として6項目を示しました。この「6項目」について、これまでの「労使共同宣言」に謳われている内容と趣旨が概ね一致することから、千葉地本は会社からの発信を重く受け止め、「6項目」をベースに会社との真摯な議論により労使関係の再構築を目指す考えです。

### ◆噂に惑わされず、明るい職場を取り戻すため、臨時大会を成功させよう！

いま最も大切なのは「一日でも早く、明るく働きがいのある職場を取り戻すこと」です。その上で、千葉地本は労使間の諸問題について、会社と真摯に向き合い、話し合いによる解決を目指す方針です。職場で発生した問題点を皆で共有し、「会社へのチェック機能」を発揮して労使の話し合いにより解決することは、会社の発展と組合員・家族の幸福を目指すために大切だと考えます。

一方、そのような姿勢に反して、論点をずらし、情報操作によって組合員を扇動することを許しません。組合の集会や会議に参加しようとした組合員に対し、一部の組合役員から様々な噂や理由をつけて欠席が促され、真実を知らされないままに謎の期限を区切られた結果、脱退した仲間がいると報告されています。「あの時なぜ教えてくれなかったのか」と禍根を残すことがあってはなりません。組合役員は、組合員に真実を正確に伝える義務と、皆で真実を見抜き、本音が言える体制を創らなければなりません。不利益などの噂に惑わされないよう要請します。

いま、仲間の復帰を信じて職場で少数でも踏ん張っている組合員がいます。JR東労組は「駆け込み寺」であり、つらく苦しい時はいつでも地本事務所に来て下さい。このような時だからこそ花見や歓送迎会、サークル活動などのレクリエーションを基礎に仲間と繋がり、包み込み、東労組の旗のもと結集することが大切です。『労使共同宣言』の精神を継承しつつ、信頼関係を回復し、組合員が第一の東労組運動で明るく働きがいのある職場を創るために奮闘します。

改めて、組合員の皆さんに不安と混乱を与えたことに対し、深くお詫び申し上げます。失った信頼を取り戻すのは簡単ではありませんが、全力で組合員のためのJR東労組の再生に努め、臨時大会の成功に向けて努力します。東労組に結集し、仲間と共に踏ん張りましょう！

2018年3月22日  
東日本旅客鉄道労働組合  
千葉地方本部執行委員会